

北海道におけるキョクアジサシ *Sterna paradisaea* の初記録

川崎 康弘

099-3452 北海道斜里郡小清水町浜小清水72-25, 日本野鳥の会オホーツク支部

First Record of Arctic Tern *Sterna paradisaea* in Hokkaido

KAWASAKI Yasuhiro

Okhotsk Chapter of the Wild Bird Society of Japan, 72-25 Hamakoshimizu, Koshimizu, Hokkaido 099-3452, Japan
✉wryneck123@gmail.com

キョクアジサシ *Sterna paradisaea* は、ユーラシア北部、北アメリカ北部、グリーンランドで繁殖し、冬は南半球の南極圏にまで渡る種である(桐原2009)。日本へは迷鳥として渡来し、茨城や千葉、静岡などの本州各地で記録されている(例えば佐々木ら2004; 日本鳥学会2012)が、北海道からはこれまで報告がなかった(藤巻2012; 河井ら2013)。

筆者は、2004年に斜里川河口において本種と考えられる個体を観察しており、これが北海道における本種の初記録と思われる。この記録については、かねてより筆者が所属する日本野鳥の会オホーツク支部のウェブサイトにて公開していたが(日本野鳥の会オホーツク支部、キョクアジサシ、日本野鳥の会オホーツク支部、<http://www.wbsj-okhotsk.org/zukan/kyokuajisasi.htm>, 2013年12月22日閲覧)、記録の重要性を鑑み、あらためてここに報告を行う。

2004年9月2日、北海道斜里郡斜里町の斜里川河口の左岸(43°55'02" N, 144°39'34" E, WGS 84)において、約100 m離れた位置のアジサシの群れに混じるキョクアジサシを1個体確認した。そこで、10倍の双眼鏡、20–60倍のフィールドスコープ、デジタルカメラ(フィールドスコープを使用したコリメート法により撮影)を用いて観察を行った。

観察時間はおよそ10時25分から同45分までの20分間で、河口部は干潮のため干潟が現れていた。兩岸とも砂浜が長距離に渡って続き、右岸側には斜里漁港が隣接している。キョクアジサシはこの河口部の干潟に降りて休息中の70羽程のアジサシ *S. hirundo longipennis* 群中に混在し、しばしば羽づくろいを行っていた。干潟に波が打ち寄せた時や、オオセグロカモメ *Larus schistisagus*、トビ *Milvus migrans*、ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos* などの接近を警戒した時などは、本種を含むアジサシの群れは一斉に飛び立ち、一旦やり過ごしてからまた干潟に降りるなど、着陸と離陸を頻繁に繰り返していた。約20分の間にアジサシの群れが少しずつ飛去していき、本種もそれに伴って姿を消した。一時的な休息のために河口干潟へ降り立ったと考えられる。

野外観察および写真からは、この個体は(1)体長はアジサシとほぼ同大(2)脚が顕著に短く、同じ姿勢のアジサシと比較して一段背が低く見える(3)嘴は細めでやや短い(アジサシとの比較)(4)頭部がドーム状に丸い(5)眼の周囲の黒色部の範囲が広い(アジサシ第1回夏羽との比較)という特徴がみられた。これらの特徴はOlsen & Larsson(1995)や、桐原(2009)におけるキョクアジサシの記載と良く一致した。

なお、本個体は額が白く、一見して冬羽に似て

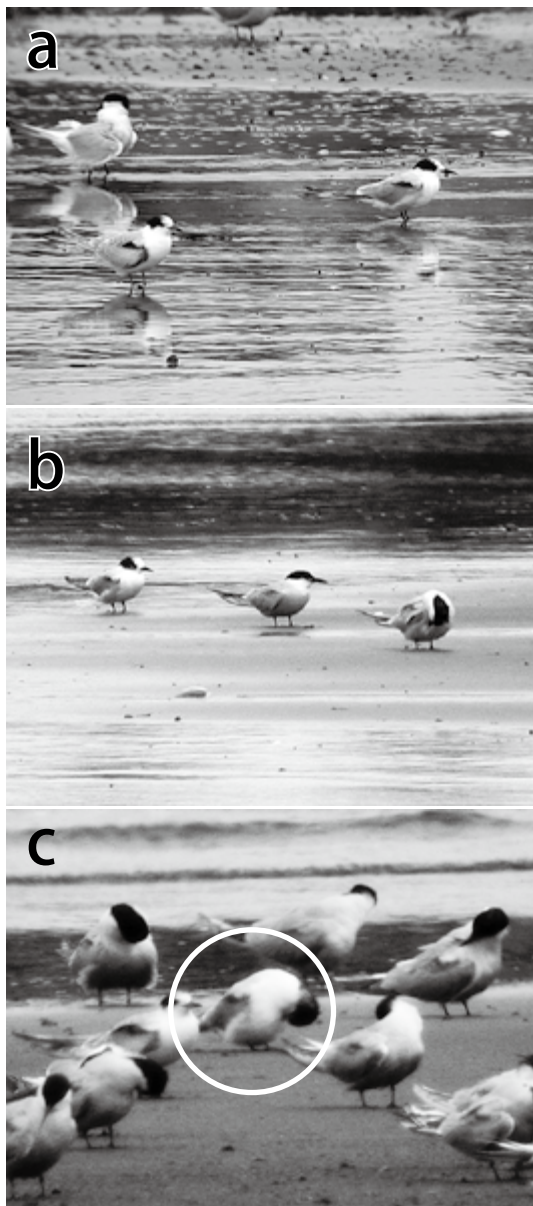


図. キョクアジサシ *Sterna paradisaea*. 2004年9月2日. 川崎康弘撮影. a: 本種(右)とアジサシ *S. hirundo longipennis*. b: 本種(左)とアジサシ. c: 羽づくろいする本種(円内)とアジサシ.

いたが、嘴や脚は黒色で赤みがないなどの特徴が認められ、Olsen & Larsson (1995) により第1回夏羽であると考えられた(図).

また、観察2日前の8月31日に台風16号が現地

を通過していた。この台風16号は8月19日にマール諸島近海で発生したのち、九州から日本列島を縦断するように北上し、31日の14時過ぎには苫小牧市付近に上陸、北海道を縦断してオホーツク海へ抜け、同日21時に温帯低気圧になるという経過をたどった(気象庁. 災害時気象速報: 平成16年台風第16号による8月27日から31日にかけての大雨, 暴風等. 気象庁, <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/saigaiji/2004ty16.pdf>. 2013年12月22日閲覧).

本種の非繁殖期の分布域は台風16号の進路から大きく離れているが(Olsen & Larsson 1995), 何らかの理由で本来のルートからやや逸れていた個体が、台風16号に巻き込まれるか避けようとして移動しているうちに日本近海に達し、近似したアジサシの群中に合流して行動を共にしていた可能性が考えられる。

謝辞

本個体を同定するにあたり貴重なご意見を頂いた渡辺義昭, 氏原道昭, 先崎啓究の各氏に感謝申し上げます。

引用文献

- 藤巻裕蔵. 2012. 北海道鳥類目録(改訂4版). 78 pp. 極東鳥類研究会, 美唄.
- 河井大輔・川崎康弘・島田明英・諸橋淳. 2013. 新訂北海道野鳥図鑑. 400 pp. 亜細亜社, 札幌.
- 桐原政志・山形則男・吉野俊幸. 2009. 日本の鳥550: 水辺の鳥(増補改訂版). 368 pp. 文一総合出版, 東京.
- 日本鳥学会. 2012. 日本鳥類目録(改訂第7版). 438pp. 日本鳥学会, 三田.
- Olsen K. M. & Larsson, H. 1995. Terns of Europe and north America. 224 pp. Christopher Helm Publishers, London.
- 佐々木裕子・中野栄明・中根敏雄・小泉金次・二本務. 2004. 静岡県富士川河口のキョクアジサシ. *Strix* 22: 215–220.